

1 審議会等の名称	令和元年度第2回三重県観光審議会
2 開催年月日	令和元年8月26日(月)
3 委員	【会長】埼玉大学 教授 石阪督規 ほかに10名出席 計11名
4 諮問事項	新三重県観光振興基本計画に向けた意見交換
5 調査審議結果	<p>新三重県観光振興基本計画策定に向け、①取組の方向性、②計画目標項目及び数値目標について審議いただきました。</p> <p>【主な意見】</p> <p>① 取組の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重の強みをきっちりと整理し新しいコンテンツを探すとともに、県としてのポジショニングを明確にした上で、客が客を呼ぶ好循環を確立するための取組に注力すべき。 ・リニア開業や大阪・関西万博などチャンスが到来しており、投資しやすい状況。ソフトも重要であるが、ハード整備等の具体的にインパクトのあるものを行うことで三重を忘れさせないようなメッセージを発信していくべき。 ・二次交通の現状を可視化し、空白となっている時間やエリアなどを埋める方法があるかを検討すべき。 ・滞在型リゾートとして、中身を具体化していくことが重要。将来の富裕層に向けた取組も含めて取り組んでいくべき。 ・観光振興を農林水産業など他の産業にどのように経済効果として波及させていくかを考えるべき。 ・DMOの地域マネジメント能力を育てるべき。 ・MICEブランド確立は重要。ワンストップでホテルや交通をコーディネートし、快適にMICEを開催できることや、本物の体験を生かして企業等のポリシーに沿ったストーリーを作ることが重要。 <p>② 計画目標項目及び数値目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値はある程度背伸びして切りの良い数値とし、事業者に向けて目指していく方向性をメッセージとして打ち出すことが必要。 ・目標値に対して、具体的にどのような取組を行うのかが分かる指標を設けてもよいのではないか。 ・所得の目標値については、低すぎるようにも見えるため、県として目標値を打ち出すべきかどうかを再検討すべき。 ・観光満足度は「やや満足」を含めて心意気として100%を目指すべき。その中で、大変満足の比率30%は悪くないため、全国トップレベルと説明を加えてはどうか。 ・外国人延べ宿泊者数を伸ばすには、ある程度アジアを中心にしていくことが必要ではないか。 ・日本人宿泊者数は減少していく市場であるため、増加し続ける目標は厳しいのではないか。
6 備考	